

DRUG



INFORMATION

2013 No. 29

平成25年12月26日発行

MRI 検査時に除去すべき経皮吸収製剤は？

岐阜大学医学部附属病院・薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp (担当：安田)

MRI 検査時に除去すべき経皮吸収製剤は？

MRI 検査施行時は、検査の妨げや火傷等の防止のため、磁性金属や導電性金属類は事前に取り外すように注意喚起されています。同様に、支持体にアルミニウムを含有する経皮吸収製剤（表 1、図 1 参照）についても、装着したまま検査を受けた患者で第 2 度熱傷が発生したとの報告があり、当該製剤については MRI 検査時には前もって除去するよう添付文書に記載され注意喚起されています。

表 1. 支持体にアルミニウムを含有する経皮吸収製剤（MRI 検査時に除去必要）

・ニコチネル TTS10、20、30	禁煙補助剤
・ニトロダーム TTS25mg	抗狭心症剤
・ニュープロパッチ 2.25mg、4.5mg、9mg	パーキンソン病治療剤
・ノルspanテープ 5mg	非麻薬性鎮痛剤

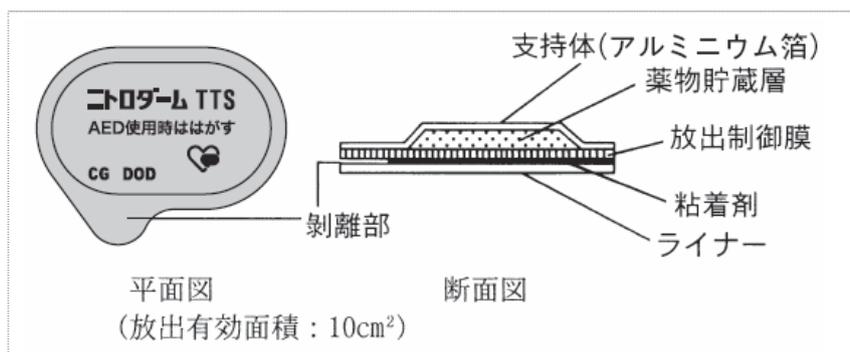


図 1. 製剤の構造（例：ニトロダーム TTS）

昨今、様々な経皮吸収製剤や外用貼付剤が販売されるようになり、上記以外の製剤においても添加物としてアルミニウムを含有する製剤があることから、MRI 検査時の対応に混乱が生じていると当院の医療安全管理室から連絡を受けました。

薬剤部による製造メーカーへの調査では、現時点において、表 1 に示す製剤以外の経皮吸収製剤（表 2 参照）における MRI 施行時の火傷の報告はありません。一方、これらの製剤を MRI 施行時に一時的に除去することにより、再貼付時の作用減弱や人為的な貼付ミスが発生する等のデメリットも考えられます。この点を十分に考慮した上でご対応頂くとともに、もし、患者からの申し出があった場合には、貼付したままでの検査に問題はないことをご説明頂くようお願い致します。

以下に、当院採用の経皮吸収製剤（MRI 検査時に除去不要）を示します。

表 2. 当院採用の経皮吸収製剤（MRI 検査時に除去不要）

《アルツハイマー型認知症治療剤》
リバスタッチパッチ
《抗狭心症剤》
バソレーターテープ、フランドルテープ、ミリステープ
《β 遮断剤》
ビソノテープ
《気管支拡張剤》
ホクナリンテープ、ツロブテロールテープ
《女性ホルモン製剤》
エストラーナテープ、メノエイドコンビパッチ
《過活動膀胱治療剤》
ネオキシテープ
《化膿性皮膚疾患治療剤》
ソフラチュール貼付剤
《副腎皮質ホルモン剤》
ドレニゾンテープ
《消炎・鎮痛剤》
アドフィードパップ、イドメシンコーワパップ、インサイドパップ、カトレップパップ、スミルテープ、セルタッチパップ・同テープ、タッチロンパップ、ナポールパップ、ボルタレンテープ、ミルタックスパップ、モーラスパップ・同テープ、ヤクバンテープ、ロキソニンパップ・同テープ、MS 冷シップ、GS プラスターC「ユートク」、MS 温シップ、ラクティオンパップ
《皮膚軟化剤》
スピール膏 M
《麻薬性鎮痛剤》
デュロテップ MT パッチ、フェントステープ、ワンデュロパッチ

※ 規格および院内院外区分については省略

なお、今後採用される経皮吸収製剤の対応については、薬剤部ホームページにて随時掲載致しますので、ご参照下さい。